

## 高月院

高月院は、六所山の麓、松平郷の東端を見下ろす場所にある浄土宗の寺院です。松平家の菩提寺であり、初代当主・松平親氏（伝 1394 年没）の時代から地域の主要な信仰の場所でした。

この寺は、1367 年に、後の松平郷となる土地を開墾した在原家のために、旅の僧侶が「寂静寺」の名で創建しました。1377 年に親氏は寺を拡張し、高月院と改称しました。また、阿弥陀如来を寄進し、いくつかの堂や建物の建設資金を提供しました。その結果、高月院は松平家の菩提寺となり、その繁栄は数世紀に及ぶものとなりました。

松平家の末裔である徳川家康（1543-1616）が天下を統一し、徳川幕府（1603-1867）が成立すると、高月院は広大な寺領を授かりました。3 代目徳川将軍・家光（1604-1651）は山門（寺の門のこと）や本堂を寄進しました。それ以降も将軍家は祖先の墓を守るため、高月院を手厚く保護をしてきました。徳川家祖先の墓は境内の一番奥にある小さな露台にあり、歴代住職の墓よりも高い場所に位置しています。

高月院では毎朝 6 時 30 分より、誰でも参加できる「朝勤行（あさごんぎょう）」を行っています。仏との縁を喜ぶ朝のお勤めとして、仏に読経を捧げたのち、住職の法話を聞くことができます。